

研究課題名	膵癌早期診断例における予後と再発形式の多施設共同研究
研究期間	実施許可日 ~2025年12月31日
研究の対象	2005年1月~2023年3月31日に広島大学病院および関連9施設（JA尾道総合病院、県立広島病院、JA広島総合病院、呉医療センター、広島市立北部医療センター安佐市民病院、呉共済病院、広島赤十字・原爆病院、東広島医療センター、中国労災病院）で手術が施行され、Stage 0、Stage IA、Stage IBと診断された患者さんと同期間に広島大学病院で手術を施行された膵癌 Stage II A以上の患者さんのうち、術後1年経過観察された方。ただし術前に化学療法が施行された患者さんは除外します。
研究の目的・方法	<p>研究の目的：膵癌は5年生存率が8.5%と最も予後の悪い癌腫です。膵癌は手術が根治できる唯一の治療法ですが、肝臓、肺、腹膜などに遠隔転移再発を認めることも多いです。一方、膵癌の早期診断の目安とされる腫瘍径10mm以下の膵癌の5年生存率は61%と報告され、比較的良好な予後が期待できます。膵癌 Stage 0（癌細胞が膵実質に浸潤せず膵管内にとどまる上皮内癌）および Stage IA（浸潤径20mm以下）で診断される膵癌は、全膵癌のうち5%程度と少ないですが、画像診断や病理診断の進歩により、報告例が増加しつつあります。一方で膵癌の早期診断例の長期予後や再発形式についてはほとんど報告がありません。本研究の目的は、広島大学病院および関連9施設で手術された膵癌の早期診断例の患者さんの予後と再発形式を明らかにすることです。膵癌早期診断例が増加する中で、膵癌早期診断例の予後や再発形式を検討することは、膵癌の更なる予後改善に寄与する可能性があると考えます。</p> <p>研究の方法：本研究は、本院および共同研究機関の診療録（カルテ）情報を調査して広島大学で解析を行います。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	情報：身長、体重、年齢、性別、生活歴、血液検査結果、画像検査結果、治療内容、予後等
利用または提供を開始する予定日	本学における実施許可日
個人情報の保護	<p>広島大学の患者さんの情報は解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないようにします。</p> <p>また、共同研究機関が広島大学に情報を提供する前においても、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないよう加工した上で提供します。対応表は、各機関の研究責任者が保管・管理します。</p>
外部への試料・情報	広島大学から外部の機関への情報提供はありません。共同研究機関

の提供	から広島大学への情報提供はパスワードを設定したエクセルをメール送信します。
研究組織	<p>研究代表者 広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡志郎</p> <p>研究機関の長 広島大学 理事 田中 純子</p> <p>当院研究責任者 広島赤十字・原爆病院 消化器内科 南智之</p> <p>共同研究機関 JA 尾道総合病院 花田敬士 県立広島病院 佐々木民人 広島赤十字・原爆病院 南智之 広島市立北部医療センター安佐市民病院 行武正伸 JA 広島総合病院 藤本佳史 国立病院機構東広島医療センター 岡崎彰仁 国立病院機構呉医療センター 山口厚 呉共済病院 野間文次郎 中国労災病院 毛利輝生</p>
その他	利益相反なし
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	<p>研究に情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象といたしませんので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。</p> <p>広島赤十字・原爆病院 消化器内科 担当者：南智之</p>